



候補地を西清崎町として「基本計画」を可決 建設費約200億円 甲良町負担11億7千万円

地球温暖化防止に逆行する大型化見直しを

10月21日に彦根愛知犬上広域行政組合議会の臨時会が開催され、建設候補地を清崎町とした彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設整備基本計画（案）の承認を求める議案が議論されました。

午後3時半からはじまった会議では、5人の議員が質問。彦根市の獅山議員と西澤議員が反対討論。傍聴席は午後8時過ぎの最終まで住民で埋まっていました。整備基本計画（案）は、西澤議員、角井議員、彦根市・日本共産党と獅山議員、伊藤議員、以上彦根市の4人が反対しましたが賛成14で可決されました。西澤議員の反対討論要旨を紹介します。

コンサル任せ？
管理者会は責任をも
って検討したのか？
半日の審議で採決は
疑問

建設候補地の選定をめぐ
て、竹原区にいったん選定さ
れてから2年4カ月、広域化
が打ち出されて当初、石寺が
選定されてから10年以上、
建設候補地をどこにするか
などの議論が先行しました。

そのため、今回議案とし
て提出された9章（174ペ
ジ）に及ぶ全面的な「基本計
画」の、詳しく専門的な内容
を理解するどころか、事実を
掌握することすらおぼつか
ない状況だと言わねばなりま
せん。そのような段階で、採決
に付すこと自体、大変疑問に
感じます。議会及び、住民の
代表の議員としての役割を全
うできるのか、大変不安にな
ることを素直に表明したい
と思います。

基本計画を議案として最終
決定したのが、令和元年9月
19日「であるならば、平成
39年」としている年号の事
現は全く不適切です。私が注
目するのは、枝葉の問題では
なく、管理者会が自信と責任
を持って、基本計画を確認し

たのか、議論を深めたのか、甘
だ疑問に思います。コンサルカ
ントの作成提案を管理者会と
して、吟味もせず、任せっきりに
している一つの表れではな
いか、という深い疑問です。

それらの意味でも、議案の不
決が相当であり、全章を、1
1つ丁寧に時間をかけて審議
し、議会のチェック機関とし
ての役割を果たすと共に、当局は
説明責任を細微にわたって果
す義務があることを改めて提
示するものです。

低すぎる減量目標

減量」やる気なし？

9年後に燃えるごみを5%、
燃えないごみを2.9%削減す
る目標は、減量のヤル気がな
いと思えません。

稼働開始後の処理体系」

述べている資源ごみは、新施設
においては、焼却時の余熱を直
効率で回収することが可能にな
るとともに、排ガス処理設備
の高效率な有害物質除去が可能
となることから「可燃ごみと
して処理する」として、余熱
利用」と表現しているが、プ
라스틱容器を燃やすことで直
熱を発生し、ほかのごみを燃や
やすくする燃料の代役を果た

せようとするものであり、
もう一つの問題は、プラ
スチック容器を燃やすこと
で、有害物質の除去ができ
るかにように述べられて
いるが、プラスチックに含
まれる様々な有害物質、重
金属、化学物質、薬品など
が放出される別の危険が高
まるおそれがある。ここ
には、燃やすごみを極力減ら
し、「ごみゼロ」をめざす
徳島県上勝 かみかつ 町
のような姿勢は全く感じ
られません。

自分たちのゴミは 自分たちで処理 生まれる住民自治

「ごみ処理の広域化」は、
それぞれの市町の自主的
な取り組みを押しつづす
恐れがあります。①自分が
出したごみはどのような
ルートで処理され、最後は
どこに行くのか？②ごみ
と社会の関わり③ごみと
大気汚染、海洋汚染、地球
環境への影響など、身近で
小さな単位で、みんなで考
え意見を交わすことが住
民自治を前進させるうえ

徳島県・上勝町の取り組み

◇分別：34種 8割減量化
(2017年度実績)

◇ゴミ処理費用：593万円
◇回収資源販売額：213万円
◇差し引き後負担額：380万円
※人口1,525人

甲良民報

2019年11月3日 772号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在士373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

で重要です。

財政面からも

彦根市」・4町」別々の枠組みで考えるべき

施設建設費約200億円と、均等割り20%、人口割り80%の負担割合で試算する。甲良町の負担額は約1億7千万円、彦根市は約102億円、愛荘町は約23億円、豊郷町は約11億9千万円、多賀町は約12億円)となります。

このように実際試算してみまると、膨大な負担が強いられることがわかります。逆にこれだけの負担をするのなら、現行の彦根市の枠組みと4町の枠組みが可能であることが十分に考えられます。

地球環境を守るため大型化は再考すべき

近年、豪雨災害や台風被害が各地で起こっていて、その原因として地球温暖化による海水面上昇がいわれており、地球環境を考えればごみ処理の大型化は再考すべきです。ところが行政は、ダイオキシンや水銀などの放出は基準以下で大丈夫だ、としています。しかし、基準以下であっても煤煙は出ます。小量の放出であっても、20年30年たてば周辺環境に影響を及ぼします。事故が起これば煤煙の大量放出につながります。

9月の国連 気候行動サミット」でのグレタ・トゥンベリさんの呼びかけに答え、多くの若者が地球温暖化を自分の問題として考え行動を始めています。新施設は50年先を展望した「基本計画」が必要

新施設は少なくとも50年先で稼働します。だとするならば、50年先を展望した環境に負荷をかける「基本計画」が必要です。そのためには、見直しが必要だ、可能だと考えます。いままでの彦根市清掃センターと4町のリースセンターの枠組みで再検討すべきである、と強調して反対討論とします。

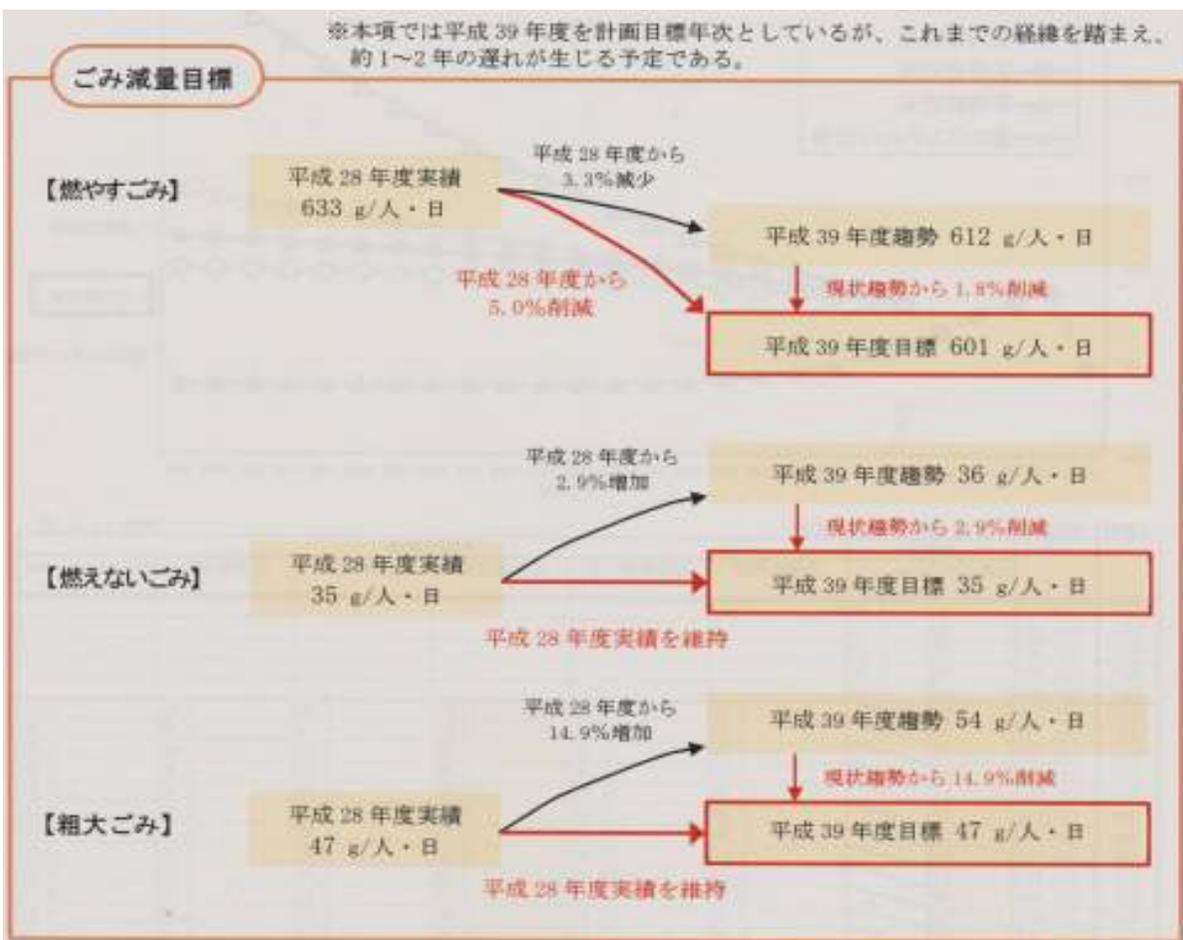
注) 報道のように「西清崎町」に建設候補地は決まりました。が、今後、環境アセスメント、地質調査に約4年、その後「建設地」にふさわしいか管理者会が検討、決定し、議会に承認を求め、承認されれば施設建設着工となり、およそ10年後に

稼働をめざす、との説明です。

日本共産党は、どこの「建設地」にかかわらず、討論で述べた通り、現在の彦根市・4町の枠組みで計画するよう求め、みなさんと力を合わせてまいります。

公民館空調施設改修の今後

公民館の空調施設改修について、あまりにも高額で、「企業言いなりの随意契約には納得できない」などの理由で、5月6日、10万円の工事契約議案の否決、10月7日)を受け、10月29日、町は「今後の事業の進め方」を提示。12月議会に設計費の補正予算を計上し、夏季までに完成をめざすと説明。議員からは設計費を省略し、複数業者の見積もりを取り、せめて年度内に完成を、などの意見が交わされ、町長は検討する、と応じました。改修に向は具体化されるものと思います。(西澤)



▲「彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設整備基本計画・第2章46ページ」より